

商店街景観整備事業によって生み出された街路デザインの継承・更新に関する研究
— まちの個性としての定着に向けて —

A Study on the Succession and Updating of Street Design
Created by Cityscape Improvement Projects in Shopping Streets :
Towards the Establishment of the City as a Unique Character

37236157 小林夏月

The purpose of this study is to clarify the elements of street design that have been inherited to the present day in shopping streets where cityscape improvement projects have been implemented and the factors behind this, and to obtain suggestions on how to renew street design while inheriting it as the town's character. First, we investigated the relationship between changes in street design and changes in spatial characteristics by literature survey using literature and Google Street View focusing on 19 shopping streets that received the 1987 "Tedukuri Kyodo Award". Next, selecting Isezaki Mall 1st and 2nd Streets as examples of renewal and succession in street design, the changes in street design from the development planning period to the present are investigated through a literature survey and interview. And the elements that were succeeded or renewed and their backgrounds are analyzed. The results revealed that the concept of the cityscape development project at the time of planning and the maintenance of the shopping street organization are related to the succession of the street design, and that the characteristics of the content of the development itself are linked to changes in the street design.

1. はじめに

1-1. 研究の背景と目的

日本では、1970 年代より商店街の近代化や来訪者の利便性向上、アイデンティティの確立を目的に、アーケードの設置やカラー舗装の実施、ショッピングセンターの建設など、統一感や快適性を創出する景観整備事業が全国で実施された。また、現在、設備の老朽化や利用者の減少に伴い、再整備を実施・検討している商店街も少なくない。過去に景観整備事業が実施された商店街では、商店街としての機能の変化に関わらず、まちの個性として定着するように景観の更新・継承を図ることが必要だと考える。

既往研究には、商店街の近代化に向けた景観整備事業の実施状況や計画段階に着目した研究^{1) 2)}や再整備の実態を明らかにした研究³⁾などがある。しかし、景観整備事業の計画段階から維持管理期や再整備まで、商店街の景観の変遷に着目した研究は見られない。

本研究では、街路空間の意匠・設備およびそのコンセプトとビジョンを「街路デザイン」と定義する。商店街整備事業実施時と現在の街路デザインを比較し、現在まで継承された街路デ

ザインの要素とその要因を明らかにし、景観整備事業後の街路デザインの変遷とその背景の整理から新しく整備した街路デザインをまちの個性として継承しながら更新する方法について示唆を得ることを目的とする。

1-2. 研究の対象

本研究では、「昭和 62 年度手づくり郷土賞いきいきとした楽しい街並み 30 選^{注1)}」受賞作品より、受賞当時に沿道敷地に商店街が構成され、商店街の近代化や充実した街路空間の創出が主な整備目的と推測される 19 事例を対象とした。受賞作品にはモール化など商店街の街路デザインを一新する整備が多いこと、整備から約 40 年が経過し、街路デザインの更新が見込まれることから、商店街の街路デザインの変化を調査する本研究に適する事例であると考えられる。

1-3. 研究の構成と手法

まず、19 事例を対象として整備時と 2024 年現在の街路デザインを比較し、街路デザインの変化や空間特性の変化との関係について分析した。次に分析結果を踏まえ、街路デザインの継承と更新の双方が見られる事例としてイセザキ・モールを抽出し、景観整備事業の計画段階

から現在までの街路デザインの変遷とその背景を整理し、継承された街路デザインの要素とその要因について考察した

2. 整備時と現在における街路デザインの変化

2-1. 調査方法

（1）街路デザインの変化に関する調査

対象事例の街路デザインの変化の傾向を明らかにするため、整備事業に関する記述や当時の写真を用いた文献調査を行った。表1の分類に即して、街路のハード整備の内容ごとに「記述・写真ともに設置が確認できるもの」、「文章の記述のみのもの」、「写真から整備が予測されるもの」の3つに分類した。また、Google ストリートビューを用いて現況を確認し、前述の調査より整備が確認された項目の変化を整理した。

表1 整備内容の分類

街路	ハード	道路	舗装の改善 電柱等の建設 アーケード 照明 広場 ストリートファニチャー	舗装 ベンチ 電柱ボックス 彫刻 反照 ゴミ箱 水飲み場 案内板 ステージ その他 街路樹・植え込み プラントボックス
		ソフト	街づくり協定 業務設定 その他 駐車場 モータリゼーション その他	街路樹 プラントボックス
街路・沿道	ハード	ハード	交通のシステム その他	沿道店舗の建替え・改築

（2）商店街の空間特性の変化に関する調査

商店街の機能の変化を把握するため、受賞時と最新の住宅地図を用いて、沿道敷地建物1階部分の用途・店舗業種の分布およびその変化を調査した。

2-2. 調査結果

表2に対象事例ごとの受賞時と2024年現在の街路デザインの変化について示す。本節では商店街の規模を受賞時の1階沿道敷地の店舗数に応じて3種類に大別し^{注3)}、分析を行った。

（1）景観整備事業の内容

路面舗装や照明の整備、ベンチ・街路樹の設置を実施する事例が多く見られた。商店街の規模ごとの整備内容の傾向はほぼ見られなかった。

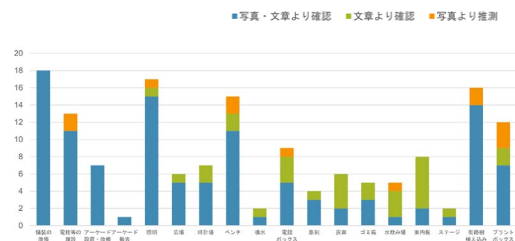


図1 商店街景観整備事業の内容

表2 対象事例ごとの街路デザインの変化^{注2)}

対象作品	ストリートビュー 確認時期	道路		アーケード		照明	広場	ストリートファニチャー										緑			
		舗装の 状態	電柱等の 設置	設置 状況	撤去			時計塔	ベンチ	噴水	電柱 ボックス	彫刻	反照	ゴミ箱	水飲み場	案内板	ステージ	その他	街路樹	プラントボ ックス	
サンモールたっこ	2024年10月 2023年11月	a◎	-	a◎	-	×	△	×	a◇	-	a◎	-	×	×	-	c◎	-	7アーチ	a◇	c◇	
一番町ショッピングモール ①一番町通り ②一番町通り ③一番町通り	2024年5月 2023年8月 2018年8月 2011年8月	d◎	a◎	d◎	-	d◎	?	d◇	d○	×	c○	-	×	×	d○	◆	-	×タイムカプセル ◆WiFiルーター	d○	×	
秋田駅前買物広場	2024年5月 2019年5月 2017年4月	d◎	a◎	◆	-	c○	a◎	-	c◇	-	×	▲	-	-	-	c◎	-	-	c◇	c◇	
酒田市ショッピングモール ①中央通り ②中央通り ③中央通り	2023年9月 2023年6月 2023年4月	c◎	a◎	a◎ (中央のみ 実装)	-	b◎	c◎	-	①a◇	-	①▲	①▲	-	-	②▲	②×	-	c○トイレ a○モニュメント	a○	c○	
大町通り	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
日立銀座 ショッピングモール	2024年7月	a◎	a◎	-	-	a○	-	c△	×	×	c◇	a◎ ◆	-	-	×	c◇	-	c○シンボルタワ ×タイムカプセル ×案内板 ◆ポスター	c○	-	
川口ショッピングモール	2022年5月	a◎	-	-	-	a○	c○	×	c○ ◆	-	-	▲	×	×	-	-	a◎	a○小川・池 a○ポスター	d○	-	
ショッピングモール ふじの市通り	2024年8月 2024年4月 2023年3月	a◎	a◎	-	-	a○	-	-	a○	-	-	-	-	▲	-	-	a◎アーチ	a○	d◇		
馬場町商店街	2024年8月 2023年9月 2023年3月	b◎	a◎	-	-	a○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	c○	-	
豊和銀座商店街	2022年8月	b◎	-	×	-	×	-	-	×	-	-	-	×	×	-	×	-	×アーチ ×シンボルタワー	-	c◇	
イセザキモール	2022年7月	a◎	a◎	-	a◎	a○	-	a◎	a◇	-	×	a◎	×	×	×	×	b○案内板 ◎デジタル サイネージ	-	b○アーチ	d○	×
かすがモール	2024年9月	b◎	a◎	a◎	-	×	-	×	c○	-	-	c◎	-	-	c◎	-	-	◆ポスター	c○	×	
中込グリーンモール	2024年5月 2021年6月 2019年9月	a◎	a◎	-	-	a○	c○ ◆	-	c○	-	-	c○	-	c○	-	-	-	a◎モニュメント a○小川・池	a◇	c○	
ふれあいの横通り	2024年6月	c◎	a◎	-	-	a○	-	-	c○	-	×	a◎	-	-	-	c○	-	-	a○	-	
美濃町通り	2024年6月	a◎	-	-	-	a◎	-	-	▲	-	-	-	◆	-	▲	-	-	-	c○	-	
岸和田駅前通り	2023年2月 2022年11月	c◎	-	b◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
軽度野シンボルロード	2024年6月	a◎	a◎	-	-	a○	-	a◎	a○	-	a○	-	-	-	-	c○	-	a○ポスター a◎バスシェルター	a○	c○	
大橋駅前通り	2024年11月 2023年3月 2022年11月	b◎	a◎	-	-	b◎	-	-	×	-	c○	-	-	-	-	-	-	b○ポスター ◆ポスター ◎バスシェルター ◆バスシェルター ◎シンボルプレート	c◇	c◇	
中央パークアベニュー	2024年6月	a◎	a◎	a◇	-	a○	-	-	a○	-	a○	-	-	◆	×	c◎	-	7噴水 c○中央 ?モニュメント板	c○	c◇	

①現在の街路デザイン ◎ ストリートビューより確認 ○ 数量・配置の変化不明 △ 一部撤去 △ ストリートビューより確認不可 × 撤去(仮定含む) ? 整備時の設置場所が不明
※文量から整備が明瞭でない項目に関して ◆ 新設(写真・ストリートビュー等より判断) ▲ 新設不明(元の状態が不明)
②デザインの変化 a: 整備時と異なるデザイン b: 整備時と異なるデザイン c: 不明 d: 量

（２）街路デザインの変化

整備が実施された事例の多い路面舗装や照明、街路樹は維持されている事例が多かった。一方で、ストリートファニチャーは項目ごとに変化の傾向が異なり、商店街の規模に関わらず、ゴミ箱や灰皿は撤去される傾向にあった。また、彫刻は設置が継続される傾向がみられる。撤去される理由には来街者の求める機能の変化、老朽化や故障、管理者の不在などが推測される。

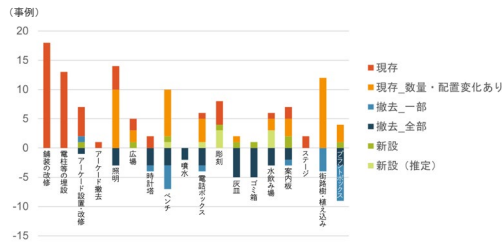


図 2 項目ごとの街路デザインの変化

2-3. 街路デザインと空間特性の変化の関係

調査結果より対象事例の街路デザインの変化のパターンは、整備項目の撤去等が多く見られる「消失型」、整備時から現在までほぼ変化が見られない「継承型」、街路デザインの継承に加え、新設の整備やデザインの変更が見られる「継承・更新型」の 3 種類に分類された（表 3）。街路デザインの変化と空間特性の変化との関係に着目すると、店舗数が半数以上減少し、商店街の衰退が推測される事例では、街路デザインは消失する傾向にあり、継承されづらいと推測される。また、店舗数の増加が見られる商店街では街路デザインが継承される傾向にある。また、街路デザインの継承・更新の双方が見られる事例は、100 店舗以上で構成される大規模な商店街が分類された。再整備等により街路デザインが一新され、街路デザインが継承されない事例はなかった。以上より商店街の特性の変化と街路デザインの変化は関係があると考えられる。

表 3 街路デザインの変化と空間特性の変化の関係

	① 街路デザインの消失	② 街路デザインの継承	③ 街路デザインの継承・更新
街路デザインの変化	景観整備事業 現在 整備後、撤去・消失 景観整備事業によって生み出された街路デザインが撤去等により消失した。（整備時から撤去された項目が 3 以上の事例を分類）	景観整備事業 現在 整備後、ほぼ変化なし 景観整備事業によって生み出された街路デザインに現在ほぼ変化がない。（整備時から撤去・新設項目が 2 以下の事例を分類）	景観整備事業 現在 再整備 デザインの変更・新設・撤去など 景観整備事業によって生み出された街路デザインの維持に加えて、新設の整備やデザインの変更による継承・更新が見られる。
対象事例	・サンモールたっこ ・日立銀座 ・シヨッピンモール ・川口ショッピングモール ・東和銀座商店街 ・かすがもーる	・秋田駅前買物広場 ・酒田市ショッピングモール ・シヨッピンモール ・ふじの市通り ・馬場町商店街 ・中込グリーンモール ・ふれあいの通り ・美殿町通り ・岸和田駅前通り ・銀座町シンボルロード ・大橋駅前通り ・中央パークアベニュー	・一番町ショッピングモール ・イセザキモール

〇：店舗数が半数以上減少したもの
■：店舗数が増加したもの

2-4. 小括

文献調査より対象事例の街路デザインや空間特性の特徴の変化を整理した。その結果、整備内容による変化の特徴や商店街としての特性の変化との関係が示唆された。

3. イセザキ・モールにおけるケーススタディ

3-1. 対象地の概要

本章では手づくり郷土賞受賞後、再整備の実施があり、街路デザインの更新と継承が図られた事例として、イセザキ・モール^{注4)}より伊勢佐木町 1・2 丁目地区を対象とする。対象地では手づくり郷土賞受賞のきっかけとなった 1978 年のモール化事業以降、1999 年から 2000 年にかけて大規模な再整備事業が実施された。

（１）1978 年モール化事業

公共交通の再編による利用客の低迷や周辺地区の台頭等を背景に、行政と地元が協力し 1978 年にモール化が実現した。キャッチフレーズとして「太陽と緑と青空のある新しい商店街」が掲げられ、アーケードの撤去や歩行者専用道路化、ストリートファニチャーが設置された。

（２）1999～2000 年ライブタウン整備事業

改正大規模小売店舗法の施行や百貨店の閉鎖などで地盤沈下が進む商店街の巻き返しを目指し、横浜市が主体となってウェルカムゲートのリニューアルなどの大規模な再整備事業が 1999 年から 2000 年にかけて実施された。

3-2. 調査の目的と方法

現在まで継承された要素とその要因を明らかにするため、整備当時に編纂された資料や写真などの文献や現地調査、商店街組織へのヒアリング^{注5)}より、整備計画期から現在に至るまでの街路デザインの変遷とその背景を調査した。

3-3. 調査結果

（１）モール化事業計画時の基本方針

モール化事業では安全性、保健性、利便性、快適性を考慮し、人間尊重の立場から健全な環境整備を図られた。基本理念の設定に加え、理念を具体化する 5 つの基本方針が策定された。

・ 4 つの場の設定

通りが直線的で変化に乏しく、歩行者空間として不足していることが課題として挙げられた。整備範囲内の交差点を中心に、4 つの空間に分け、各々の場の性格付けが図られた。

・ グリッドの採用

商店街全体での統一感の演出を図り、4m のグリッドシステムが採用され、ストリートファニチャーや樹木、路面パターンなどの配置の基本となった。

緑化による憩いの場、文化活動の場として快適な歩行者環境の創造が図られた。街路樹の樹種や本数は4つの場の演出に対応して配置された。

歩行者空間の拡充を目指し、道路上の専有物の数を最小限とするため、機能の集約化が図られた。例として、街灯ユニットには、灰皿、ゴミ箱、ベンチなどの機能が集約されている。

市民意識の高揚やコミュニティーの形成を図り、市民参加のスポットゾーンが設けられた。

図 3~5 にそれぞれ 1978 年モール化事業後、2000 年ライブタウン事業後、2024 年現在の平面図を示す。また、街路デザインの要素ごとの変遷とその背景を図 6 に示す。各時点の主な街路デザインの変化を以下に整理する。

アーケードの撤去と軒先のシェードの設置や歩行者専用道路化、ゴミ箱や灰皿、ベンチなどのストリートファニチャーや街灯の設置が実施された。また、商店街のシンボルとしてウェルカムアーチやからくり人形時計などが設置された。

・モール化事業後以降～ライブタウン事業前
水飲み場の新設と撤去、ツリーサークルベンチ
の新設、ウェルカムゲートのリニューアル等が
実施されたと考えられる。

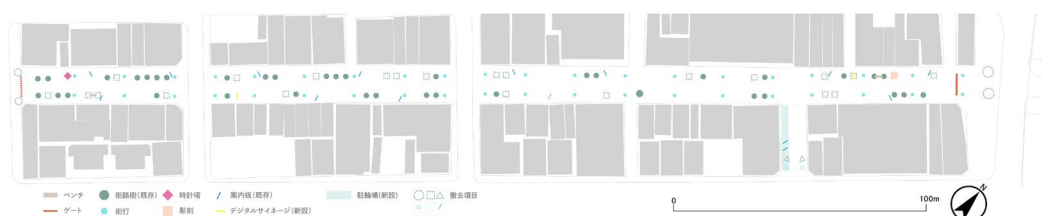
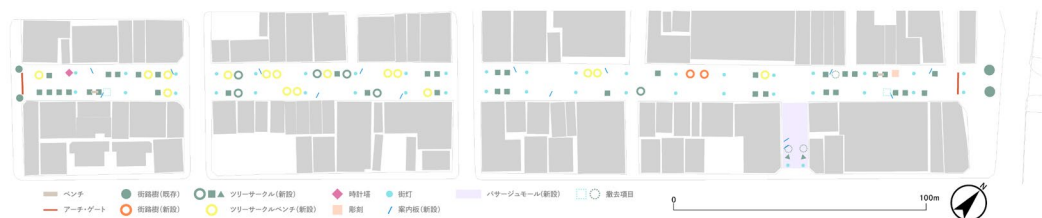
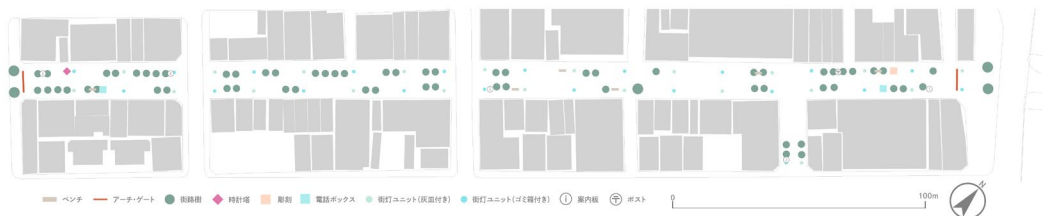
ツリーサークルベンチの再整備やウェルカムゲート・パサージュモール等の商店街のシンボルの新設や更新が実施された。ツリーサークルベンチは「4つの場」を考慮した配置となっていることが推測され、モール化事業時の基本方針が継承されていると考えられる。

街路樹の大幅な減少、ウェルカムアーチ・パサージュモール・ツリーサークルベンチの撤去があった。

調査結果より街路デザインの変化の要因および計画時のコンセプトとの関係について考察を行う。

・消失の要因

撤去の理由は「老朽化や安全上の課題」「来街者の需要の変化」「意図しない用途での使用」の大きく3つに分けられる。パサージュモールやウ



エルカムアーチ等は商店街として来街者の安全性を確保するため、老朽化に伴い撤去され、水飲み場やゴミ箱等は衛生面や安全性に対する価値観の変容、社会的背景の変化が撤去につながった。また、一部のベンチや花壇等は本来の機能で使用されず、景観や治安に悪く影響する使用があったため、撤去された。

・更新の要因

デジタルサイネージや駐輪場など来街者の需要の変化や行政の依頼に伴って、新たに整備されている。

・継承の要因

継承された街路デザインの特徴には「想定 の機能を果たしているもの」「撤去しづらいもの」「安全性が担保されているもの」「街の財産として積極的に継承されたもの」が挙げられる。買い物客の休憩場所として本来の機能で使用され、撤去が困難な本石ベンチや照明一体型ベンチは、モール化事業時より設置が継続されている。また、安全上の問題がないため、使用が続けられているものには街灯等が挙げられる。また、故障や破損があった中、修理・修繕が実施されたからくり人形時計やタイル舗装に関しては、街の財産として捉えられ、意識的に継承されていることがわかった。

（２）整備計画段階のコンセプトやビジョンが再整備に与える影響

ヒアリングより、整備当初のキャッチコピーである「太陽と緑と青空のある新しい街」として緑陰の確保を図った樹木の再整備を検討されるなど、整備計画時に策定されたコンセプトが現在の再整備の指針となっていることが分かった。街路デザインの継承において、景観整備事業時の街のコンセプトが重要だと考えられる。

（３）コンセプトの共有・継承のツールとなるソフト整備の有用性

イセザキ・モールでは街づくり協定が策定されており、基本方針として「緑と青空に恵まれた伊勢佐木モール」が掲げられている。基本方針は策定時より変わっておらず、街づくり協定や地区計画等のソフトの整備がコンセプトの継承・共有のツールとして、有用だと推測される。

3-5. 小括

イセザキ・モールのモール化事業の設計段階のコンセプトと整備内容を整理し、現在までの街路デザインの変化と商店街の特性の変化を把握した。その結果、更新・継承が見られる街路デザインの特徴および基本理念の継承と共有が再整備計画に与える影響が明らかとなった。

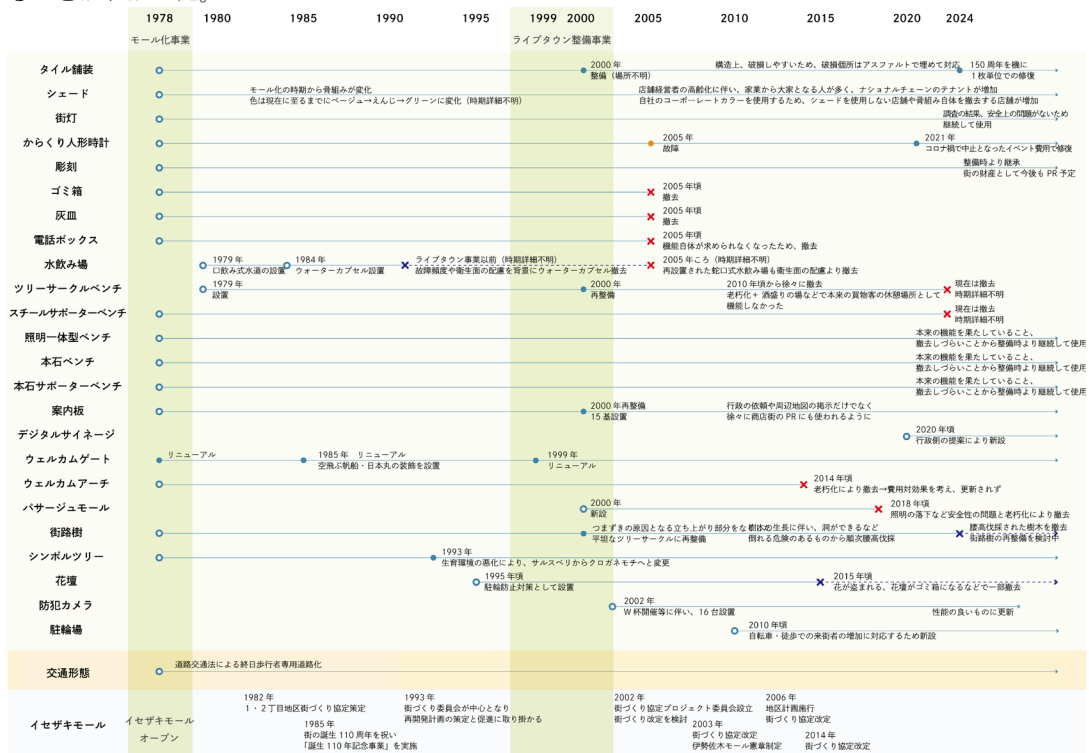


図 6 街路デザインの各要素の変遷とその背景

4. 結論

調査分析より、景観整備事業の計画時のコンセプトや商店街組織の維持が街路デザインの継承と関係していること、整備内容自体の特性が街路デザインの変化につながっていることが明らかとなった。

(1) 事業計画時のコンセプト策定の有効性

整備計画時の基本理念が再整備時の指針となる場合があり、街路デザインの継承に大きな影響を与えると見える。

(2) 商店街・組織の維持による街路デザインの継承

振興組合や商店会などの商店街組織によって再整備など景観整備事業のマネジメントが実施され、街路デザインの継承につながっている。一方で、商店街としての機能に衰退が見られる事例では、街路デザインの消失がみられる。また、老朽化や破損、故障を経た後も継承された街路デザインは商店街組織や市民によって意識的に継承されたことがわかった。

(3) 整備内容自体の持つ特性による街路デザインの変化

景観整備事業の各整備項目の持つ特性に応じて、継承・更新の状態が異なる。規模や整備に時間やお金のかかる街路舗装は一定期間が経過した場合も街路デザインとしての継承が見られる。一方で、ストリートファニチャーは項目ごとに変化の傾向が大きく異なり、来街者の需要に応じて、求められる機能が変化し、街路デザインの変化につながっていると考えられる。

5. 研究の課題と展望

本研究ではケーススタディの対象として、現在も商店街として繁栄しているイセザキ・モールに取り上げた。そのため、現在は商店街として機能していない地域や衰退が見られる商店街を含め、街路デザインの定着を分析した網羅的な研究とはいえない。今後は商店街としての特性に変化が見られる地域においても街路デザインがまちの個性として定着される要因について明らかにすることが期待される。

補注

注1)「手づくり郷土賞」は、地域特有の自然や歴史、伝統、文化や地場産業等を貴重な地域資源として見直し積極的に利活用した良質な社会資本とそれに関わった団体の努力を表彰するため、昭和61年度に創設された。開始から平成7年度までの10年間は水辺や広場、街角などテーマを設けてそれぞれ30選を表彰する形式で、62

年度は「ふれあいの並木道」「水辺の風物詩」「いきいきとした楽しい街並み」の3テーマについて、各々30作品(計90作品)が選定された。注2)受賞対象の範囲が不明の大町通りを除く。注3)対象事例の延長距離や敷地面積と建物の総数を考慮し、手づくり郷土賞受賞時の店舗数から商店街の規模を分類した。住宅地区より確認できる沿道敷地1階の店舗数に応じて35店舗未満、35店舗以上100店舗未満、100店舗以上の3種類に分類した。

注4)本研究では、伊勢佐木町商店街のなかで最初にモール化され、1・2丁目の延長として3丁目以降のモール化事業においても基本理念やデザインを受け継いだ整備が行われていること、1・2丁目と3丁目以降で商店街組織が異なり、街路の維持管理が分かれていることから、手づくり郷土賞受賞の対象の一部である伊勢佐木町1・2丁目地区(イセザキ・モール1・2St.)を対象とする。

注5)ヒアリング調査は、イセザキ・モール1・2St.の環境整備やソフト事業などの管理運営を担う伊勢佐木町1・2丁目地区商店街振興組合に2025年1月に一度実施した。

参考文献

- 1) 樋口忠彦・大丸英博・山崎 健太(1995)「商店街における景観整備に関する研究」日本建築学会技術報告 1995年1巻1号 pp.276-279
- 2) 瀬口哲夫・川岡秀郎(1989)「都市計画事業と併行推進した小売商業近代化事業に関する研究」都市計画論文集 1989年24巻 pp.241-246
- 3) 中島玲欧名・中井検裕・中西正彦(2008)「地方都市の中心市街地商店街における全蓋式アーケード撤去の動向と実態に関する研究」都市計画論文集 2008年43.3巻 pp.439-444
- 4) 建設省建設経済局監修(1988)「精選手づくり郷土賞 part 2(並木道、風物詩、街並み)」ぎょうせい
- 5) 横浜市都市整備局編(1978)「イセザキ・モール計画に関するデザイン研究」竹中工務店
- 6) 伊勢佐木町1・2丁目地区商店街振興組合イセザキ歴史書をつくる会 編著(2009)「OLD but NEW イセザキの未来につながる散歩道」神奈川新聞社
- 7) 横浜市都市計画局(1978)「Isezaki・mall」横浜市都市計画局
- 8) ゼンリン(1988, 1989, 1992, 1999, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024)「ゼンリン住宅地図」